

令和3年度

基本目標及び各事業の進捗・ 評価状況について（概要版）

弘前市文化芸術振興計画

—文化芸術のちからで 時代を拓く人が育つまち 弘前—

基本目標・事業評価管理シートの見方①

□指標について

- 各事業の指標については評価を行った事業担当課が設定しております。
- 文化施設の利用者満足度については、現状は各施設でアンケート項目にばらつきがある状態ですが、今後は共通項目を定めるなど統一化を図ってまいります。

□基準値について

- 基準値は原則として令和2年度実績としておりますが、令和2年度に実績のなかった事業については、実績のあった初年度の数値を基準値としています。

基本目標・事業評価管理シートの見方②

□実施状況欄について

- ・実施状況欄には、事業の実施結果についてのみ記載されております。

□評価について

- ・自己評価欄は、定量的な視点（基準値に対する実績値の推移）だけでなく、定性的な視点（Ex. 事業実施時における創意工夫）も加味した総合評価となっています。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった事業は評価対象外としています。
- ・評価の理由欄には、定量・定性双方の視点での評価理由が記載されています。
- ・各事業の評価者は、担当課欄に記載の部署です。

基本目標ごとの評価（政策評価）①

- 昨年に引き続きコロナ禍に見舞われ、文化芸術イベントの多い9月及び2～3月に公共施設の一斉休館となった。（p.1 基本目標1） —
- 文化施設の職員や指定管理者職員が、少ない開館日数を最大限活用できるよう利用希望者と積極的な日程調整を行い、自ら文化芸術イベントを企画・宣伝した結果、昨年度とほぼ同じ文化施設利用者数にまで伸ばすことができた。（p.1 基本目標1） ➡
- 市民文化祭や一流芸術文化イベントの開催数も昨年度より増えたことで、参加者及び鑑賞者の数も基準値2,459人→令和3年度9,684人と大幅に増加した。（p.1基本目標2） ➡

基本目標ごとの評価（政策評価）②

- 昨年同様中止に追い込まれたイベントもある中、感染対策を工夫しながらイベントを開催した団体も増えてきた。（p.1 基本目標2） 
- 郷土弘前の歴史と文化遺産への親しみ度合いについては、基準値63.6%→令和3年度65.6%と、ほぼ変化がなかった。（p.1 基本目標4） 
- 文化財の公開・活用イベント等の参加割合については、基準値20.6%→令和3年度23.7%と、ほぼ変化がなかった。（p.1 基本目標4） 

【基本目標1】 多彩な文化芸術の鑑賞・参加機会の充実に係る各事業評価

- 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、市民が様々な文化芸術に触れる機会が少なからず失われた。(p.2-4) —
- 弘前市民文化祭は、開催イベント数が基準値5件→令和3年度16件に増加した。(p.3 事業No.1-2)-a-①) ➡
- オンラインを積極的に活用する団体など、感染対策を工夫してコロナ禍にも適応するイベントが増えてきた。(p.2 事業No.1-1)-a-⑤、p.3 事業No.1-1)-b-④) ➡
- ✓今後はノウハウの蓄積や団体間での共有が課題となる。

【基本目標2】文化芸術活動の活性化に係る各事業評価

- 弘前市民文化祭は、開催イベント数の増加に伴い、入場者数も基準値1,402人→令和3年度5,592人と、大幅に増加した。
(p.5 事業No.2-1)-a-①) 
- 新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、昨年と同様に補助事業を開催できた。(p.5 事業No.2-1)-b-①～⑤) 
- 文化施設の利用者満足度は、おおむね90%前後を維持している。
(p.6 事業No.2-2)-b-①～⑤) 

【基本目標3】次代の文化芸術を担う 人材の育成に係る各事業評価①

- ワークショップへの参加等により、昨年度より多くの子どもたちが、優れた文化芸術を体験する機会を得た。(p.7 事業No.3-1)-a-①～②) 
- オンラインやDVD等の活用により、コロナ禍でも一流の音楽家やダンサーの技術を学ぶ機会の創出を維持することができた。
(p.7 事業No.3-1)-a-③、p.8 事業No.3-2)-a-⑤) 
- 全国高等学校ファッションデザイン選手権大会事業は、オンラインを活用して、コロナ禍でも全国大会の開催を実現することができた。
(p.7事業No.3-1)-a-④) 

【基本目標3】次代の文化芸術を担う 人材の育成に係る各事業評価②

- 市の特産品であるりんごの文化や生産管理技術に触れる機会を、昨年度と同様に創出することができた。(p.7 事業No.3-1)-b-⑤・⑥) ➡
- 後継者育成に係る事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業が開催中止となった。
(p.8 事業No.3-2)-a-④・⑥、事業No.3-2)-c-①) —

【基本目標4】市民が誇れる文化財の 継承に係る各事業評価

- 文化財に親しむイベントについては、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったものもあったが、おおむね昨年度より多くの人々が参加、鑑賞した。(p.9 事業No.4-1)-a-①～③) 
- 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を達成した。
(p.9 事業No.4-1)-a-④) 
- 古文書等のデジタル化は順調に進んでいる。(p.9 事業No.4-1)-a-⑥) 
- ハード面での整備、修繕はおおむね計画どおり進捗している。
(p.10 事業No.4-2)-a-①～⑧) 

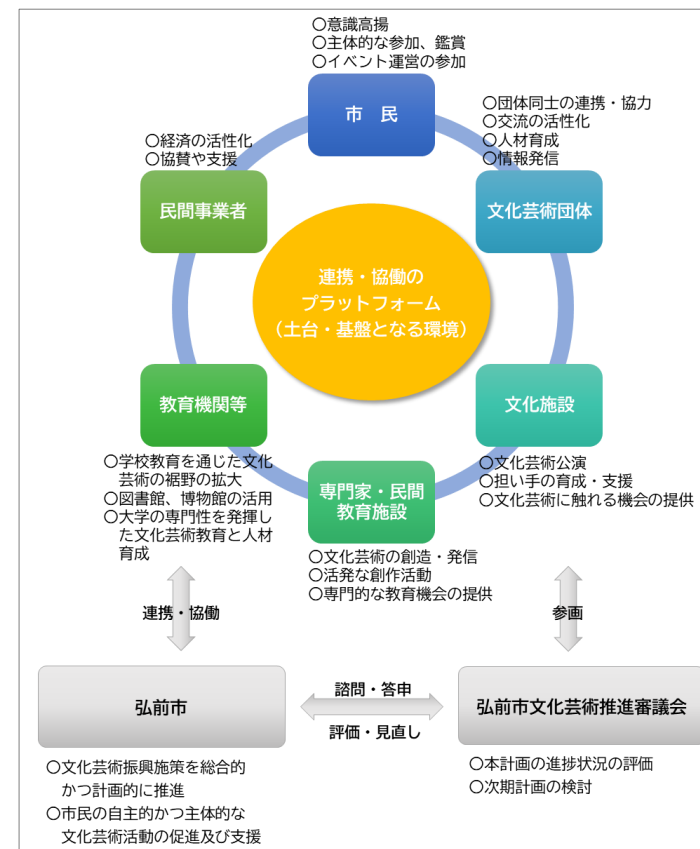
【基本目標5】文化芸術を活かしたまちづくりに係る各事業評価

- 歴史的資源を観光面のほか産学官金連携に活用する取り組みを行っており、試験的運用から本格運用へと順調につなげている。
(p.11 事業No.5-1)-a-①) 
- 弘前城本丸石垣の積み直し工事に関する見学会の開催を予定していたが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。
(p.11 事業No.5-1)-a-③) 
- 国の伝統工芸品である津軽塗の販路拡大等についての取り組みは、一部が新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、おおむね計画どおり行われている。(p.11 事業No.5-1)-b-①) 

今後の取り組みの方向性①

□連携・協働のプラットフォーム構築の推進

- より多くの市民に文化芸術イベント等の情報を届けるため、情報の見える化が必要となる。
 - コロナ禍に対応した文化芸術活動が求められるため、イベントのオンライン化などのノウハウを各団体間で共有化することで、互いに活動の幅を広げていく。
- ポータルサイトや中間支援体制の構築を進めることで、各団体が主体的に情報の取得や団体間の連携に動ける体制を整える。



【推進体制図】

今後の取り組みの方向性②

□各種フォーマットの整備と情報の掲示

- アンケート結果が公表されていないため、他の団体やイベントの評価される点や改善点の情報が得られない。
- 現状は各団体で独自にアンケート調査を行っているため、項目にばらつきが多く、団体ごとの比較が難しい。
- アンケート用紙等のフォーマットを作成し、各団体に配布することで、共通項目でのアンケート調査を可能にし、他の団体やイベントとの比較を可能にする。
- ポータルサイトに各種アンケート結果を掲示することで、多くの団体が工夫点や改善点の参考を得られるようにする。

〇〇 〇〇 個展 アンケート

本日は御来館いただき誠にありがとうございます。今後の展覧会事業の参考のため、ご意見・ご感想をお聞かせください。 ※該当する欄に「✓」を付けてください。

来館日 月 日

●〇〇 〇〇 個展についてお聞かせします。(※チェック☑はひとつだけ)

Q1 展示作品はいかがでしたか？
⇒ ☐ とても良かった ☐ 良かった ☐ ふつう ☐ あまり良くなかった ☐ 良くなかった

Q2 展示方法はいかがでしたか？
⇒ ☐ とても良かった ☐ 良かった ☐ ふつう ☐ あまり良くなかった ☐ 良くなかった

Q3 説明文はいかがでしたか？
⇒ ☐ とても良かった ☐ 良かった ☐ ふつう ☐ あまり良くなかった ☐ 良くなかった

Q4 本展覧会はいかがでしたか？
⇒ ☐ とても良かった ☐ 良かった ☐ ふつう ☐ あまり良くなかった ☐ 良くなかった

●本展覧会を何でお知りになりましたか？(※チェック☑は複数可)

☐ 新聞(新聞名) ☐ ポスター・チラシ ☐ テレビ・ラジオ
☐ 公式ホームページ ☐ その他ウェブサイト(サイト名)
☐ ダイレクトメール ☐ 施設スタッフ ☐ 知人からの伝聞
☐ 本日にここを知った ☐ その他 ()

●本展覧会への来館理由をお聞かせください。(※チェック☑は複数可)

☐ 〇〇氏のファンである ☐ 版画・絵画に興味がある ☐ 美術全般に興味がある
☐ 知人に誘われた ☐ 当館をよく訪れる ☐ 団体の活動に興味がある
☐ 観光施設として訪れた ☐ その他 ()

●年齢 ☐ 9歳以下 ☐ 10代 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70代 ☐ 80歳以上

●性別 ☐ 男性 ☐ 女性

●住所 ☐ 弘前市内 ☐ 青森県内 ☐ 青森県外

●本展覧会についてのご意見・ご感想がございましたらお書きください。

アンケートへのご協力ありがとうございました。
△△センター 指定管理者 □□

【アンケート例】